

—廃棄物再利用率 100%に向けた取り組み「サーキュラーシティ丸の内」の第2弾—

## ペットボトルのリサイクル Bottle to Bottle を推進

リサイクルサーキュレーションを構築、年間約 600t のペットボトル再生で石油由来の原料製造比 CO2 排出量 60%削減へ

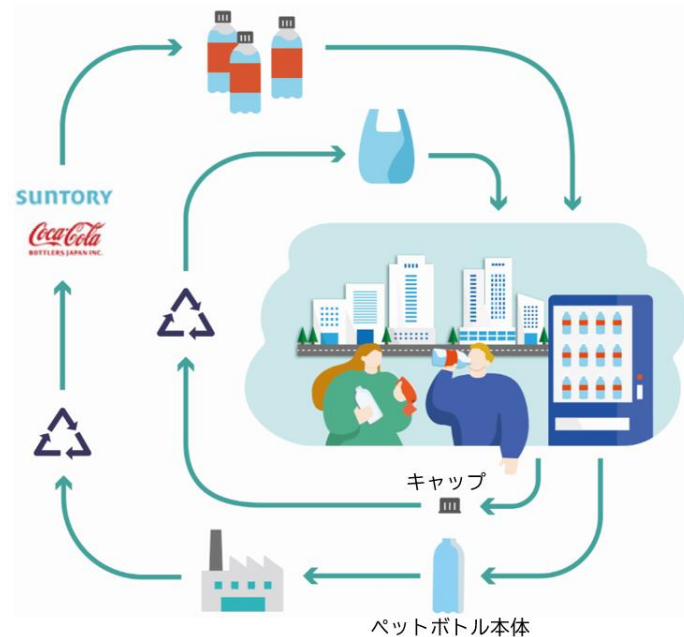
三菱地所株式会社はこのほど、サントリー食品インターナショナル株式会社、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と協業し、丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）のオフィスビル 24 棟で排出されたペットボトルを新たなペットボトルに再生する「Bottle to Bottle リサイクルサーキュレーション」を構築、持続可能な資源循環の取り組みを推進します。民間企業が面的に当該規模で行うのは初めてで、年間約 600t のペットボトルを再生し、石油由来の原料製造と比較してバリューチェーン全体で CO2 排出量を 60%削減<sup>※1</sup>します。

※1 使用済ペットボトルからプリフォーム製造（ペットボトルとして膨らませる前の段階）までの工程において

本取り組みは、資源循環に着目した廃棄物再利用率 100%に向けた取り組み「[サーキュラーシティ丸の内](#)」の第2弾で、食品ロス削減に向けた料理の持ち帰り施策「[MARUNOUCHI TO GO プロジェクト](#)」に続くものです。今後も持続可能な社会に向け、テナント就業者・来街者など多様なステークホルダーとともに、環境に優しいまちづくりを目指します。

### 【対象ビル（合計 24 棟）】※2022年6月から順次開始

丸ビル、新丸ビル、丸の内パークビル、丸の内二重橋ビル、丸の内永楽ビル、丸の内北ロビル、丸の内オアゾ A 街区商業施設、三菱ビル、丸の内二丁目ビル、丸の内仲通りビル、東京ビル、新東京ビル、国際ビル、新国際ビル、有楽町ビル、新有楽町ビル、日比谷国際ビル、大手町パークビル、常盤橋タワー、大手町フィナンシャルシティ グランキューブ、大手町フィナンシャルシティ サウスタワー、大手門タワー・ENEOSビル、大手町ビル、新大手町ビル



▲ペットボトル リサイクルサーキュレーションの概念図

現在、丸の内エリアの対象ビルで排出されたペットボトルは、プラスチックのシートやトレイ、繊維など様々な製品に 100%再利用されていますが、今回、サントリー食品インターナショナル、コカ・コーラ ボトラーズジャパンとの連携によって、両社の飲料用ペットボトルにリサイクルする仕組みを構築しました。

また、ペットボトルをボトル・キャップ・ラベルに3分別する啓発活動や、分別を促進する環境整備も併せて実施。再生した飲料用ペットボトルは丸の内エリアの自販機で販売する飲料容器として一部利用されるほか、分別回収されたキャップについてはペットボトル回収時に使用される収集袋の一部原料としてリサイクルするなど、総合的な循環システムの構築を行う予定です。

三菱地所グループでは「三菱地所グループの Sustainable Development Goals 2030」において、CO2 排出量や再生可能電力比率のほか、廃棄物においても再利用率と排出量に関する削減目標と KPI<sup>※2</sup>を定めています。今後も、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

※2 廃棄物再利用率 90%と排出量 20%削減（2019年度比/㎡あたり）を目標に掲げるとともに、丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）では、廃棄物再利用率 100%を目指しています。

## ■ペットボトル3分別の啓発活動と分別を促進する環境整備

ペットボトルの品質や回収効率向上には、就業者や来街者の分別への意識や協力が不可欠です。そのため、オフィステナント向けに「サステナビリティガイド」を2021年6月に配布し、執務室内においてペットボトルをボトル・キャップ・ラベルに3分別する啓発を行っています。この度、サントリー食品インターナショナル、コカ・コーラ ボトラーズジャパンの協力も得ながら、分別の啓発及び環境整備を推進します。

## ■サントリー食品インターナショナルの取り組み

※詳細リリース：<https://www.suntory.co.jp/softdrink/news/pr/article/SBF1267.html>

・リサイクル手法は、サントリー食品インターナショナルがパートナー企業と日本で初めて共同開発した、使用済みのペットボトルからペットボトルを再生する「メカニカルリサイクルシステム」※3や、さらに工程を省くことで環境負荷低減を実現した「FtoPダイレクトリサイクル技術」※4などを活用。再生ペットボトル製造時のCO2排出量は、新たに石油由来原料を使用する場合と比較すると前者では約60%、後者では約70%の削減が可能※5。

※3 メカニカルリサイクルシステム

ペットボトルリサイクルの手法のひとつ。使用済みペットボトルを粉砕・洗浄した後、さらに高温、減圧下で一定時間の処理を行い、再生材中の不純物を除去する方法を日本で初めて開発。

※4 FtoPダイレクトリサイクル技術

回収したペットボトルを粉砕・洗浄したフレーク（Flake）を高温、減圧下で一定時間処理し、溶解・ろ過後、直接プリフォーム（Preform）を製造できる新技術を世界で初めて開発。プリフォーム製造までの結晶化処理や乾燥などの工程を省くことで作業の効率化を実現。

※5 使用済みペットボトルからプリフォーム製造までの工程において

・28万人のオフィスワーカーを有する大丸有エリアのオフィスビル利用者の方々や商業施設の来訪者に対し、三菱地所が所有する約160カ所のサイネージやビジョンを活用し、「ペットボトルをボトル・キャップ・ラベルに3分別することの大切さ」や「飲み切ることの大切さ」を伝える啓発動画を7月より展開。また、「[大丸有SDGs ACT5](#)」の活動にも参画していくなど、三菱地所と協働して様々な啓発活動に取り組んでいく予定。



▲啓発動画をサイネージやビジョンでも展開

## ■コカ・コーラ ボトラーズジャパンの取り組み

※詳細リリース：<https://www.ccbji.co.jp/news/detail.php?id=1290>

・丸の内エリアの三菱地所所有・管理ビル内に設置したコカ・コーラ ボトラーズジャパン管理の自動販売機(以下、自動販売機)に「リサイクルしてね」ロゴをPOPとアッパーサインにて掲示。製品パッケージと共通するメッセージ訴求により、消費者の分別意識を啓発。

・自動販売機横のリサイクルボックス（空容器回収ボックス）全てを分別対応型に刷新。

・分別対応リサイクルボックスには、導入後一定期間、自発的な行動変容を促す「ナッジ理論」を活用したメッセージを掲出することで分別を促進。

・コカ・コーラ ボトラーズジャパンが回収したペットボトルキャップは、ポリ袋の一部原料としてリサイクルされ、自動販売機横のリサイクルボックスの内袋（収集袋）として使用。



▲常盤橋タワー内に設置されたコカ・コーラ社自動販売機とリサイクルボックス



▲「ナッジ理論」を活用したメッセージを掲出